

要約作成の方法

1. 「前半部」では本の重要部分を要約しよう

前回説明したとおり、最終課題「マイ・ブックレビュー」は、本の内容を紹介する「前半部」と、本に対する自分の意見を述べる「後半部」からなるものです。このうち、「前半部」を書くために必要な準備として、以下の三部分によく目を通すようお願いしましたね。

- ① 図書のオープニング部分：「はじめに」「序」「まえがき」「プロローグ」など
- ② 図書のエンディング部分：「おわりに」「結び」「あとがき」「エピローグ」など
- ③ 目次

これらは、どれも一冊の中身を「オーヴァー・ビュー（総覧）」できる箇所ですから、本の重要部分だと言えます。今日はこのうち、①「オープニング部分」の要約方法を学びましょう。これは数千字レベルの短文を要約する一般的な技術に通じるものです。今後、新聞記事や短めの論文・報告書などの要旨（サマリー）を作る場合にも応用できますよ。

2. 基本姿勢は「肉を落として骨だけ残す」

普通の文章は、書き手の主張や思考などの主要な情報ばかりでなく、それを補強する「事例の紹介」や、分かり易くするための「比喩の提示」、強調するための「比較・対比」といった副次的な情報を含んでいるものです。著者は、いわば骨（主要情報）に豊かな肉（副次的情報）をまとわせるようにして、より文章を完成させていくわけです。一方、それを要約する場合は逆のことをします。つまり、なるべく肉を削り落とし、著者が言おうとしている中核部分だけを残し、かつ一応意味の通じる文章に再構成するのです。要約作成は、大まかにいえば二つの作業からなるといえます。

- ① 副次的部分の「省略」：事例や比喩、比較・対比の表現などをカットする
- ② 短文・短語への「置き換え」：長い文、複雑な言い回し、飾りの多い表現を簡潔に言いかえる

3. 要約作成の一例

原文（出典：森永卓郎『非婚のすすめ』東京：講談社。）

【段落A】 シングルを続けると一生子女は持てない、そう考えるのが、日本では一般的な理解だろう。一九七〇年代に未婚の母がブームになった時も、その珍しさが注目を集めただけで、一般の女性が未婚の母に走りはじめたわけではなかった。いくら「翔んでる女」がブームになったところで、婚外子を持つ親に向けられる冷たい視線や子供を育てる際の経済的、社会的な障害の多さを考えれば、おいそれとシングルのまま子供を産むわけにはいかなかったからである。（207字）

【段落B】 それにもかかわらず、最近では若い女性の中に、結婚でしぼられたくはないけれど、子供だけは欲しいという希望を言う人がずいぶん増えてきた。そうした彼女たちの希望は一部の人たちからはひどく不道德なものとして非難されるかもしれない。しかし、結婚しないと子供がもてないという「常識」は、決してわが国の伝統や文化に裏打ちされたものではなく、先進国に共通したものでもない。極端に言えば、戦後の日本に突然現れたものなのである。（204字）

要約

【段落A】 シングルを続けると一生子女は持てないと考えるのが日本では一般的だ。婚外子を持つ親への冷たい視線や経済的、社会的な障害があるためだ。（65字）

【段落B】 だが最近、結婚しなくても子供は欲しいと言う若い女性が増えてきた。それを不道德と考える人もいるが、結婚しないと子供が持てないという「常識」は戦後の日本に突然現れたものだ。（84字）